



— 個別の指導計画 を 活用する視点 —

！学期末を迎え…子どもたちの実態やニーズの変容に…その成長ぶりに…
ワクワクしたり…ドキドキしたり…イライラしたり…先生方は、いかがでしょうか？



「個別の指導計画」は、「個別の教育支援計画」に示された長期的な教育支援の方針を踏まえて作成します。

自立活動や各教科・領域等について、その指導目標・内容・方法等を子どもたちの実態やニーズに応じ、より具体的に示し、評価・改善する指導計画です。

その際参考にしたいのが、**特別支援学校教育要領・学習指導要領解説**です。

子どもたちの「**実態把握**」から始める視点が重要です。

子どもたちの実態に応じた指導を行う姿勢が基本です。

その子にとって望ましい学習効果が表れているか？少し立ち止まって、整える時期となりました。

実際の評価・改善には、対象となる子どもたちと教師の相互作用を整える視点が求められます。

良かれと思って、一方通行…では、残念ながら…指導効果は期待できない…というのが現実です。

いわば、各教科等の学びを支える「**自立活動の指導**」における「個別の指導計画」の作成では、子どもたちの「**学習上又は生活上の困難**」を把握し、その**改善・克服**を図るために、**中心的な課題を整理**し、必要な**目標**を長期的、短期的に検討します。自立活動の**6区分27項目**に示す**要素**の中から、必要な項目を**選定**し、それらを**相互に関連付けながら、具体的な指導内容を設定**していきます。

御自身の指導を**整える好機**を迎えています。

子どもの言動が、その子の学習上又は生活上の困難さを改善・克服するどころか、増幅させているように見えるようなら、「自立活動の視点」から「実態把握」を再調整し、中心課題、目標、内容、指導法を少しだけ主体的に調整してみるチャンスです。

教科学習に馴染めず、不適切な言動が続くように見えるなら、それらを、子どもたちからの**SOS・主体的な苦情**として捉え、歩み寄り、理解してみましょう。「複数の視点」で再調整し、個別の指導計画を活用する好機到来です。



〈 視覚障害に基づいた 学習上又は生活上 の 困難例 〉

- ・ 移動や食事、衣類の着脱等の日常的な行動が制限され、経験が不足する。
- ・ 文字や図形の読み書き等が制限され、視覚情報が不足し、概念の形成や知識の習得に制約を受けることが多くなる。
- ・ 空間関係の理解や動作の模倣などといった視覚情報を活用することが制限され、運動・動作や作業的な技術の習得に難しさが生じる。
- ・ 大きい物の全体像を把握したり、全体と部分との関係をとらえたり、立体感・遠近感をつかんだりすることが苦手である。
- ・ 対人認知が難しく、社会性の発達が遅れる。



【 自立活動の区分・項目 と 指導内容の例 】

6 区 分	27 項 目	指 導 内 容 例
1 健康の保持	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の視力や視野などの理解 ・ 保有する視機能の維持、学習中の姿勢 ・ 危険な場面での対処
2 心理的な安定	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めての場所や周囲の変化に対する対処
3 人間関係の形成	(4) 集団への参加の基礎に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団に参加するための手順や決まりの理解
4 環境の把握	(3) 感覚の補助および代行手段の活用に関すること (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚補助具（単眼鏡、ルーペ）等の活用 ・ 拡大教材の活用 ・ ボディ・イメージや空間概念の形成 ・ 地理的な概念の形成
5 身体の動き	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動における動作とバランスの調整 ・ 手指の巧緻性を高める活動 ・ はさみ、コンパス等の各種道具の使い方
6 コミュニケーション	(3) 言語の形成と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保有する感覚の活用による言語の正しい理解 ・ 場の雰囲気を読み取り、その場に応じた意志の伝え方

大切なことは、児童生徒の実態を適正に把握し、一人ひとりの障害の状態に応じたきめ細やかな指導につなげることです。

また、関係者が情報を共有し、共通理解や校内体制づくりに役立てられることを目指します。そのためにも、定期的に評価し、より適切な指導になるように改善を加えていくことも重要です。

